

1. 実況上の着目点

- ① 日本の東の 500hPa5640m 付近に-18℃以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。対応して日本の東に前線を伴った低気圧があって発達しながら東北東進。東日本では大気の状態が不安定となっており、伊豆諸島周辺では雷を検知。
- ② 西日本～南西諸島は東シナ海に中心を持つ高気圧に覆われ、おおむね晴れている。
- ③ 朝鮮半島では黄砂を観測し、視程が 10km 未満の地点もある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは深まりながら寒冷渦となって動きが遅くなり、20日にかけて日本の東を北東に進む。関東甲信地方では19日は上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。トラフに対応する1項①の低気圧は急速に発達しながら、19日は日本の東を北東に進み、20日は寒冷渦直下となって日本の東で動きが遅くなる。低気圧や前線の影響で気圧の傾きが大きくなるため、北日本～東日本では風が強くと吹いて、波が高くなりしけとなる所がある。北日本～東日本では20日にかけて強風やうねりを伴った高波に注意。
- ② 500hPa5640m 付近のトラフが19日は華北を東進する。このトラフに対応して、19日夜までに華北で低気圧が発生、20日は黄海を東進する。また、500hPa5760m 付近の流れに対応して、19日夜までに華中で前線(850hPa15℃前後)が発生、20日夜には九州南部付近にのびる。前線や低気圧に向かって、下層暖湿気(850hPa θe 336K以上)が流入し、大気の状態が不安定となる。九州地方では20日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風に注意。また、低気圧や前線の周辺では気圧の傾きが大きくなるため、西日本では20日は、強風や高波に注意。
- ③ 1項②の高気圧は、20日には日本の南に中心を移し、東日本～南西諸島を覆う。850hPaの気温が平年に比べ5℃前後高くなる。北日本～東日本の積雪の多い地域では、20日にかけて、融雪やなだれに注意。
- ④ 北日本～西日本では引き続き19日は、黄砂が飛来する可能性がある。視程が5km未満になった場合には交通への影響が発生するおそれがあるので注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ①大雨ポテンシャル(06時から24時間): 高い所(100mm以上)はない。
- ②波浪(明日まで): 北海道・伊豆諸島4、東北・関東・九州北部3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。